

圭陵会FAXニュース

発行所:岩手医科大学圭陵会
 発行人:石川 育成
 編集人:酒井 明夫
 連絡先:TEL019-624-8386
 :FAX019-624-8380
 e-mail :info@keiryokai.gr.jp

第6号内容

- ・衛星通じ遠隔病理診断
岩手医大・沢井教授らグループ
- ・新修復手術に成功 二階堂法で国内初
岩手医大病院
- ・26.2倍の難関に挑む
岩手医大・医学部 4会場で一般入試

岩手医大・沢井教授らグループ

衛星通じ遠隔病理診断

JAXAと実証実験へ

へき地や山間部 実用化に期待大

岩手医大医学部病理学講座先進機能病理学分野の沢井高志教授(61)ら研究グループは宇宙航空研究開発機構(JAXA)と連携し、来年1月下旬に超高速インターネット通信衛星「きずな」(WINDS)を利用した遠隔病理診断の実証実験を行う。遠



沢井高志教授

文部科学省の2009年度宇宙利用促進調整委託費「衛星データを利用した新規利用開拓プログラム」の一環。本年度から2年

間、約3千万円の事業費で手術中の迅速病理診断、複数の病理専門医が問題症例や難解症例を協議、相談(コンサルテーション)する。

器の接続確認や通信システムを調整。病理画像を伝送し遠隔病理診断を試行する。10年度は沖縄県など国内に広げたい意向だ。

病理診断は、摘出した組織、細胞から病気を診断したり、腫瘍の良性・悪性、転移の有無などを判断するもので、医療現場で大きな役割を果たしている。

実証実験は、岩手医大の盛岡市内丸、矢巾町の両キャンパスをWINDSでつなぎ、機器の接続確認や通信システムを調整。病理画像を伝送し遠隔病理診断を試行する。10年度は沖縄県など国内に広げたい意向だ。



超高速インターネット通信衛星「きずな」(WINDS)宇宙航空研究開発機構(JAXA、東京)が2008年2月に打ち上げた。電波の放射方向を高速かつ自在に変更できる

アンテナや高速情報交換機を搭載。宇宙と地上をつなぎ、超高速・大容量の通信技術の確認や各種利用実験を通じて新たな衛星利用の開拓、実証を行っている。

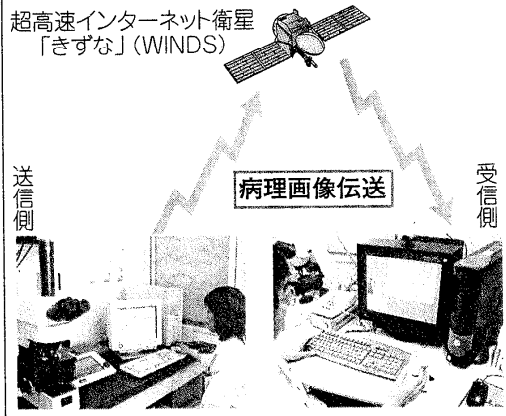
日本病理学会によると、病理専門医は全国で約2千人(09年9月1日現在)で、医師全体の1%に満たない。本県は岩手医大付属、盛岡赤十字、県立中央大船渡、胆沢の5病院などに21人(同)いる

本県は02年4月に超高速インターネットを利用した「医療情報ネットワークシステム」を構築。岩手医大と県立11病院を結んで遠隔病理診断ができる環境を整えた。

沢井教授は「今後は地理的、物理的な制約が少ない衛星を利用し、病理医や医師不足を補いたい。衛星は国際的なネットワーク構築もでき、将来は国境を超えた利用も目指している」と語る。

医療情報学が専門で、遠隔医療に詳しい国際医療福祉大学(栃木県大田原市)の開原成允副学長兼大学院長(77)は「地理的な課題が多い地域で大変有用な手段だ。日本のみならず、国際的な視野からも医療全体の格差解消につながる」と実用化を期待する。

通信衛星を利用した遠隔病理診断



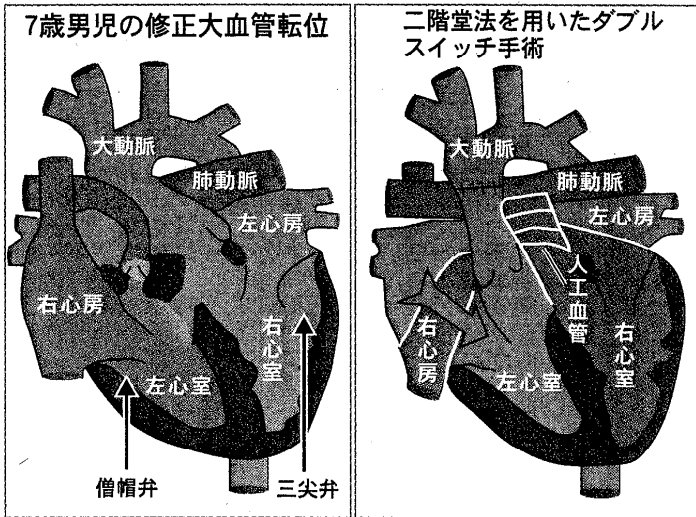
先天性心疾患の「修正大血管転位症」

新修復手術に成功

岩手医大 大病

二階堂法で国内初

岩手医大付属病院循環器医療センター（岡林均センター長）小児循環器医療チームは19日、左心室と右心室の位置が入れ替わっている先天性心疾患「修正大血管転位症」の7歳男児に、大動脈を大動脈弁ごと右心室から切り取り、本来の左心室側に付け直す手術が成功したと発表しました。



7歳男児、無事退院

同センターによると、修正大血管転位症に「二階堂法を用いたダブルスイッチ手術」と呼ばれるこの術式を用い、成功させたのは国内で初めて。難度の高い手術だが、高性能のコンピューター断層撮影装置（CT）を駆使し、成功に繋がった。

男児は青森県在住。生まれつき左心室が肺循環へ、右心室が体循環へ血液を送り出している修正大血管転位症

と、心室中隔欠損、肺動脈狭窄を患い、同センターに入院していた。心房と心室の間にある房室弁（三尖弁）に逆流を生じるようになったため、手術を行った。

手術は昨年12月1日、心臓血管外科学講座の猪飼秋夫准教授が執刀。9時間にわたり、大動脈を大動脈弁ごと左心室に縫い付ける二階堂法で左心室流出路を形成、人工血管で右心室流出路を形成する

などした。

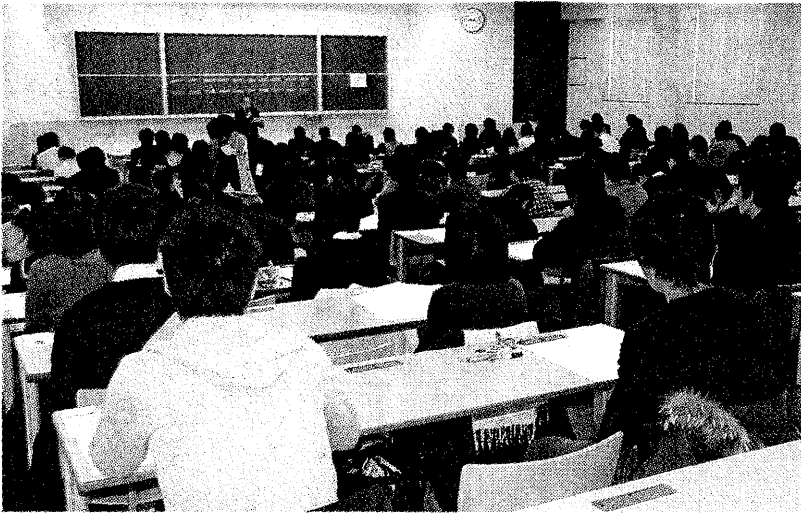
先天性心疾患は100人に1人の割合で出生し、このうち修正大血管転位症の割合は1%と言われている。手術には患者生来の心臓の形態を維持したまま、両心室での入り口と出口で血流転換を行うダブルスイッチ手術が一般的だが、7歳男児は、左心室の出口が狭くこの術式が困難だったため、二階堂法を用いた。

二階堂法は右心室に大動脈、左心室に肺動脈が接続している完全大血管転位症に用いられ、修正大血管転位症での術例はなかった。

男児は術後1週間、集中治療を行った後、12月26日に一度退院。1月6日に最終検査を終え、退院した。現在、外来で経過を観察している。

岩手医大に2008年に国内で2番目、世界で7番目に導入された320列CTにより、3次元で構築された詳細な心臓の解剖学的情報が得られたことが成功につながった。

盛岡市中央通1丁目同センターで、岡林センター長、猪飼准教授ら4人らが記者会見。猪飼准教授は「複雑な先天性の心臓の異常がある患者に対して、より安全で確実、なおかつ一番最良な状態で手術できることが重要。今回の手術内容はほかの疾患にも応用できる」と話した。



張りつめた空気の中、試験開始を待つ受験生＝20日午前8時50分、矢巾町・岩手医大矢巾キャンパス

26.2倍の難関に挑む

岩手医大
医学部 4会場で一般入試

岩手医大医学部の2010年度一般入試1次試験は20日、矢巾町の同大矢巾キャンパスなど全国4会場で行われた。定員85人に対して2229人が志願。志願者倍率は定員が増えたため、前年の27.8倍を下回る26.2倍だった。矢巾キャンパスでは245人が試験に挑んだ。午前9時、張りつめた空気の中で学科試験の外国語からスタート。理科、数学、小論文、適性検査と続いた。試験は東京、大阪、札幌でも実施。新型インフルエンザ対応は欠席状況により判断する。1次試験の合格者は2月3日の2次試験(面接)を受ける。合格発表は1次が1月27日、2次が2月6日となる。

医学部志願者2229人の都道府県別は、多い順に東京都470人、神奈川県141人、埼玉県133人など。本県からは男65人、女25人の計90人が志願した。

岩手医大医学部の定員は09年度の110人から15人増えて、125人となる。そのうち県内の高校生を対象とする地域枠は15人。既に行われた地域枠の特別推薦試験は定員15人に対して32人が受験、定員20人の一般推薦には73人が受験し、合格者が決定している。

免許を取得して4年目までの歯科医師を医学部の3年次に編入させる学士入学枠(定員5人)の試験は3月8日に行われる。

H22.1.20 岩手日報

<http://mediajam.info/topic/1172766>

圭陵会FAXニュース

圭陵会広報局では会員の相互理解を深めるために、岩手医科大学内の情報を`圭陵会FAXニュース`として配信致しております。圭陵会支部長におかれましては、圭陵会会員への情報連絡をお願いします。なお、圭陵会ホームページよりPDF形式でダウンロード頂けます。

圭陵会ホームページアドレス <http://www.keiryokai.gr.jp/>